

関西大学創立120周年を迎えるにあたって



関西大学応援団OB長柄会顧問
朝倉 満

長柄会会報「押忍」への寄稿依頼を大谷会長から貰った。タイトルは「関西大学創立120周年を迎えるにあたって」だ。振り返ってみれば、平成7年7月の創刊号に発行責任者として、永遠に続けなければならない会報「押忍」のまさに終わりなき始まりである旨の寄稿をした事が思い返された。

「年々歳々花相似たり、歳々々々人

同じからず」

関西大学が明治19年に児島惟謙、等々の人達によって関西法律専門学校として開校されて以来、今年で120年になる。児島惟謙が明治24年の大津事件の裁判で下した判決には、司法権の独立を守った事で、今日でも高く評価されて居る。人間としての良心と社会の正義を貫いた児島惟謙の信条は関西大学の建学の精神に確実に受け継がれて居る。

◆過去は確定的な悪であり、未来は可能的な善である。これらの二断面を統一して真の現実たらしめるのが、永遠につながる現在の実践である。

岩崎 卯一

◆過去をして意義あらしめるのは現在

で有り、現在をして意義あらしめるのは未来である。 久井 忠雄

関西大学を築いて来た人達の言葉だが、正に温故知新の真念の中で、古さと新しさの変遷を経ながら、関西大学は大きく発展して来た。

この先、世の中、ましてや大学がどう動くかを読むのは大変難しい。ただ、確実に分かっている事は少子化の到来だ。来年の春には志願者総数が合格者総数と同じ全入時代になる。昨年から日経新聞に大学激動が連載されて居るが、大学が大変な時代に突入した事は間違い無い。120周年を迎えるにあたり、OBの一員として微力でも何と出来ないが、長柄会共々、関西大学発展の為に尽力して行きたいと思う。

天神祭 奉拝船「関大丸」に乗船して

去る7月25日、天神祭船渡御に、総勢200名余りを乗せた「関大丸」が参加致しました。我が長柄会からも多数の諸先輩方が参加され、水面から眺める荘厳な祭の模様に皆さん酔いしれた事と思います。

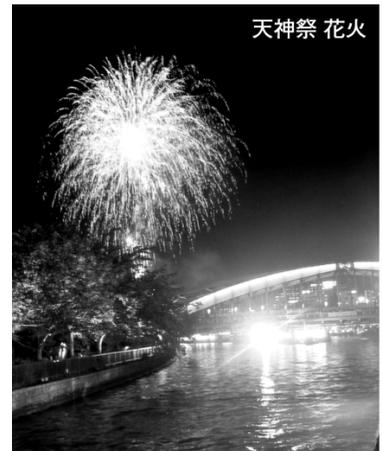
この企画におきましては一年以上前から、120周年記念行事の一環として、校友会事業部長でもある大谷会長の舵取のもと、着々と準備が進められ、現役、OB合同による演舞演奏では、奉納花火をバックに幻想的な夏の絵巻きが彩られました。

又この事は毎日新聞にも『母校の愛 満載「関大丸」』と題した記事が、翌々日に大きく掲載され、多くの人に感動を与えた。見事、関大丸の引率を果たした現役団員には今後への励みにもなった事であると思います。

2時間半ばかりの船旅を終える頃には辺りは暗くなり、長井団長のリーダーによる逍遥歌にて一番の盛り上がりを見せ、「関大丸」を後にしました。

地上で見るとは違った趣きの祭りに、貴重な経験が出来ました。

戸高 憲司(第48代)



天神祭 花火



天神祭 奉拝船「関大丸」船上

第9回 三部合同ゴルフコンペ 優勝は千成会の三木敏博さん

綿木 真二(第35代)

二部OBで組織するスポーツマンクラブ、天六同友会、応援団OB長柄会が共催する「第9回三部合同ゴルフコンペ」が、6月14日に大阪府池田市の伏尾ゴルフ倶楽部で開催された。

当日は梅雨空予想だったものの、参加者の日頃の行いが余程良かったのか、好天に恵まれ、絶好のコースコンディションもと、法人、校友会、また友好団

体である体育OB会、応援団OB千成会等からも参加して頂き、総勢63名が日頃の腕前を競うとともに、親交を深めた。プレー終了後の表彰式及び懇親会では、今回の主催者である天六同友会が進行役をつとめ、校友会古川副会長の挨拶の後、体育OB会の芽木OB会長連絡会議副議長による乾杯の発声で懇親会が始まった。

成績は、千成会の三木敏博さんが優勝、天六同友会の横畠会長から優勝カップが贈られた。準優勝は、我が長柄会の肩荷利勝さん。肩荷さんは今大会初出場で、ベストスコアも獲得した。3位はスポーツマンクラブの梅野賢治さん。

入賞者ならびに参加者からは、120周年記念募金に協力して頂き、後日合計10万7千円が募金として寄付された。

新入団員16名!

二部応援団OB新入生 歓送迎会に参加して

6月25日(日)、千里山キャンパス凜風館に於て、二部応援団OB新入生歓送迎会が執り行われました。

長井春菜団長のリーダーによる学歌斉唱に始まり、長柄会から上符文雄副会長の挨拶に続いて、ご来賓を代表して、スポーツマンクラブ中井邦夫会長、現役来賓を代表して、一部応援団中村政朋副団長からのご祝辞頂戴の後、山本英一顧問教授の乾杯の音頭により、和やかに進められました。

今年度新入団員16名の紹介があり、

初々しさの中に、応援団の一員となった事への誇りと喜びの感じられる挨拶を各々から聞いた事は頼もしい限りでありました。

ひき続き、新卒OBである小中栄二郎前団長が立派に挨拶を終えたのを受けて、現役時代より遅くなっている後輩を、諸先輩方も皆一様に讃え、新入団員の4年後の成長に期待が膨らみました。

ほどなく、ボクシング一部リーグ戦応援のあと馳せ参じて頂いた小坂道一

先輩(体育OB会会長)から、ボクシング部が一部昇格一年目にして、「優勝」という偉業を成し遂げた報告を受け、強い関西大学復活の喜びを皆でわかちあい、現役応援団員達の気持ちの引き締めを感じずにはいられませんでした。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、森本来見副団長のリーダーによる逍遥歌で閉会となり、現役学生の健闘を祈りつつ散会となりました。

戸高 憲司(第48代)

現役活動報告

第62代 団長 長井 春菜

我々二部応援団は現在、リーダー部2名、チアリーダー部7名、吹奏楽部23名の計32名で日々活動しております。今年も16名の元気な新団員が入ってきました。また我々62代は『革進』をスローガンに掲げ、今年度の活動に取り組んでいきたいと思っております。今年度は、1年ぶりに3パートが揃い、応援団としての活動ができるようになりました。また、初の女団長ということもあり、むしろこれを武器にアピールしていこうと考えております。

前期活動におきましては、4月に二部準硬式野球部応援、二部日本拳法部応援をはじめ、校友会行事や学校行事にも参加いたしました。一番大きな行

事としましては、7月25日に行われました天神祭において奉拝船「関大丸」に乗船し、そこでの演舞演奏を行いました。

今年度の大きな行事といたしましては、12月4日にメイシアターにて本部祭「進華」を執り行います。この「進華」とは、より二部応援団が発展する意味をこめた『進化』に、女幹部を象徴した『華』という漢字を使った、我々が考えた造語です。現役一同これに向けて、日々精進していく所存であります。

また我々現役一同は、今後も二部応援団を存続させるため、人数をより増やし、活動を充実させていこうと考えております。そのために、来年の新勸

におきましては、各パートで人数の確保に努めたいと思います。また、一部応援団にはない、二部にしかできない二部の強みを見つけ、活かして、二部にしかできない活動の幅を広げていきたいと思っております。

最後に、この二部消滅に伴い、二部応援団も大変な状況に立たされています。この状況を乗り切るためにも、現役が一丸となって努力していかなければなりません。そのためにも、OBの諸先輩方のご協力は必要不可欠であります。どうぞ今後も変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



第62代 団長 長井 春菜